

# 令和4年度 第1回 木曽川水系流域委員会 議事要旨

日 時：令和5年2月17日（金）10：00～12：00

場 所：AP 名古屋8階 B+C+D ルーム

木曽川上流河川事務所

木曽川下流河川事務所

木曽川水系ダム統合管理事務所

## 1. 開会

## 2. 挨拶

## 3. 議題

(1) 木曽川水系流域委員会規約の改正

(2) 木曽川水系河川整備計画の点検

(1) 木曽川水系流域委員会規約の変更

委員名簿の変更について、了承を得た。

(2) 木曽川水系河川整備計画の点検

「木曽川水系河川整備計画の点検」について説明し、了承を得た。

主な意見は以下のとおり。

### <事業全般に対するご意見>

- ・ 事業の進捗率について、現在の進捗は計画に対して予定通りといえるか。

→河川整備計画は概ね30年間の目標としているが、木曽川水系河川整備計画が策定されてから約15年経過したところ。現時点で、事業工期が大幅に遅れるような事象は生じていない。事業費面においても、全体事業費に対して約半分程度の進捗であり、現時点で大幅な事業費の見直しが必要な状況ではない。他方、労務単価の上昇や物価上昇等については、引き続き、確認が必要と考えている。

- ・ 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の取組により、当初計画に対してどの程度前倒しができたのか評価できるとより良いと思われる。

- ・ 進捗率の示し方として、整備計画目標流量に対する安全度の達成度を示す方法もある。他方、この方法では緊急河川敷道路のような危機管理対策の効果は表現できない。引き続き、整備の効果の説明には工夫が必要である。

→引き続き、進捗率の表現については工夫していく。

- ・ 事務局説明にあった「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について説明されたい。
  - 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」とは激甚化・頻発化する水害に対する対策としてR2～R7に河川整備計画における治水対策を集中的に進める期間として位置付けているもの。
- ・ 水害リスクマップの説明においては、一般の方にも分かり易い説明が必要である。また、浸水頻度や範囲について、住民の感覚との整合にも留意する必要がある。
- ・ 河川整備計画完成時点の水害リスクマップも作成した方が良い。
  - 河川整備計画完了時点については、令和4年度末の公表に向けて準備しているところ。
- ・ 揖斐川において、外来種であるコクチバスが増加傾向にあり、今後、外来種対策を検討する必要がある。

#### <個別整備内容に対するご意見>

- ・ P1～P16までのタイトルを「河川改修事業」と明記した方が良い。
  - ご指摘の通りP16までのタイトルを「河川改修事業」に修正させていただく。
- ・ P2の木曾川水系木曾川の現況河道における水害リスクマップについて、三重県長島町付近で高頻度の浸水が見られる。当該地区は、伊勢湾台風で甚大な被害が発生して60年以上経過しており、国道1号、JR、近鉄など、交通の要衝であるが、これまで整備が進められなかった事情はあるのか。
  - 高頻度の浸水の要因となっているのは、JR橋より上流の一部区間において、計画堤防高に対して堤防高が不足しているためである。当該区間については、令和7年度までに整備を完了させる予定。
- ・ P4の起・小信中島地区の堤防整備について、堤防の高さが約30cm不足しているため、堤防整備が行われているが、現況河道における水害リスクマップにおいて、低頻度での浸水しか見られない。当該地区の堤防整備の必要性について説明されたい。
  - 木曾川の計画堤防高は、計画高水位(HWL)に対して2.0mの余裕高を見込んで設定している。起・小信中島地区の堤防高は、この計画堤防高に対して約0.3m高さが不足している状況である。当該地区の上下流では堤防の高さ及び幅が確保されていることから、堤防整備が必要と考えている。
- ・ P5の河口部の耐震対策は、令和2年3月の河川整備計画の変更にて新たに位置付けた事業であり、地域の関心も高く更なる進捗が求められている。今後は、耐震対策を重点的に進めていくのか。
  - 令和2年3月の河川整備計画の変更以降、地震発生後の堤防高が津波水位以下となる区間について、対策を進めてきたところ。現在実施している天端盛土については、令和7年度までに完了することを目標に整備を進めている。

- ・ P6 の長良川の主な整備内容について、長良川遊水地のうち 1 箇所だけ対象になっているが、もう 1 箇所は未だ示せない状況なのか。  
→左図の旗揚げについては、2 箇所を 1 つにまとめて提示したものである。2 箇所であることが分かるよう図及び表を修正させていただく。
- ・ P9 の緊急河川敷道路について、渡河施設の耐震性能は十分か。  
→耐震性能については、基準に則って設計している。
- ・ P10 の長良川遊水地について、遊水地の名称が「横越地区」から「美濃市地区」に変わった経緯を説明されたい。  
→住民説明を行ってきた中で、「横越地区」は長良川の右岸側の地先名であり、当該遊水地事業が右岸側のみ安全になるという誤解を招いたために、「美濃市地区」及び「関市地区」と名称を改めている。
- ・ P18 のイタセンパラ確認ワンド数の経年変化について、近年の発見率が落ちてきているように見えるが、調査開始時点に比べると、実際にイタセンパラが確認されたワンド数は増えている。
- ・ P22 の河道の二極化について、低水路付近の河床の上昇が二極化をさらに進めてしまうことがあるため、模式図もそのように示した方が現状を理解し易いと思われる。
- ・ 河道の変化については、研究機関とも意見交換しながら進められたい。

#### 4. 報告

##### (1) 横山ダムにおける発電に資する放流活用操作の試行について

主な意見は以下のとおり。

- ・ 横山ダム以外でも、今後同様の取り組みを行う予定はあるか。  
→中部地方整備局管内では横山ダムが先行しているが、今後、他ダムにも展開されていくと聞いている。

#### 5. 閉会

以 上